

本章では、平成17年10月における食肉販売店の食肉部門の仕入量を調査し、肉種・品種別・仕入形態別の動向を分析した。なお、各仕入量は小売分のみとし、卸売分は除いている。

要 約

- 食肉の仕入構成の全店平均は、牛肉：24.5%、豚肉：51.3%、鶏肉：24.2%。「専門店」は他の業態に比べ「牛肉」の仕入構成比が高い。地域別にみると、関東以北・北陸で「豚肉」の仕入量が5割以上、近畿・四国・中国は「牛肉」の仕入量が34%以上を占める。1店当りの食肉仕入量を業態別に経年で比較すると、「スーパー」で大幅に漸増、「生協・農協」では大幅に漸減している。
- 「牛肉」の品種別の仕入構成比は、「和牛肉：33.1%」「国産牛肉：26.7%」の順で多い。前回調査と比べると「和牛肉」の比率が若干減少し、「国産乳牛肉」が増加した。仕入形態別の仕入量は、「和牛肉」は「部分肉パーツ」、他の品種も「部分肉パーツ」、「部分セット」が多い。
- 「豚肉」の仕入構成比は、「国産豚肉（83.4%）」が中心であり、「輸入豚肉（16.6%）」の仕入は少ない。経年でみると、全体では「輸入豚肉」が漸増傾向にあるが、「生協・農協」では「輸入豚肉」が漸減している。仕入形態別の仕入量は、「国産豚肉」の約4割、「輸入豚肉」の9割近くが「部分肉パーツ」での仕入れである。
- 「鶏肉」の仕入構成比は、「国産鶏肉」が91.8%を占める。前回調査時と比較するとほとんど変化がない。

1. 食肉の肉種別の仕入構成と仕入量(10月分)

(1) 肉種別の仕入構成と仕入量

全店平均の肉種別仕入構成比は、「牛肉：24.5%、豚肉：51.3%、鶏肉：24.2%」。前回調査と比較すると、「生協・農協」で「牛肉」の比率が低下

平成17年10月1ヶ月間の1店当りの食肉仕入量^(*)は3,274.4kgで、そのうち「豚肉」が51.3%と最も多くを占める(図2-1)。「牛肉」は24.5%、「鶏肉」は24.2%である。

業態別の仕入構成比をみると、いずれも「豚肉」が最も多くを占めているが、「専門店」は「牛肉(36.1%)」の比率が高く、「鶏肉(15.3%)」が少ない。「スーパー」は、「豚肉」が51.8%、「鶏肉」が26.3%、「牛肉」が21.9%である。「生協・農協」は「豚肉」が53.2%、「鶏肉」が27.4%、「牛肉」が19.5%で、他の業態より「牛肉」の比率が低い。

また、1店当りの食肉仕入量は、「専門店」が1,066kg、「スーパー」が7,826kg、「生協・農協」が3,354kgとなっている(図2-2)。

(*)牛肉、豚肉、鶏肉のいずれかの食肉を仕入れた店舗565店の平均値

図2-1:肉種別 / 仕入構成比(10月分)

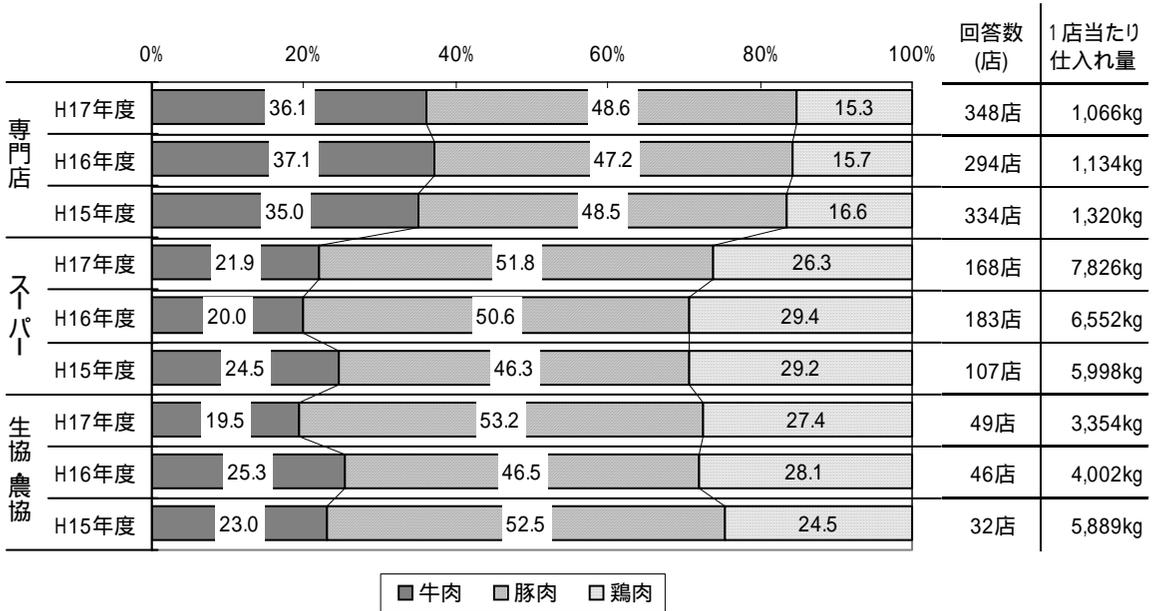
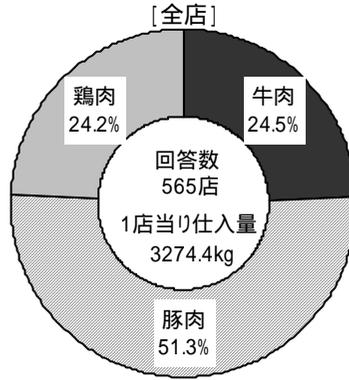
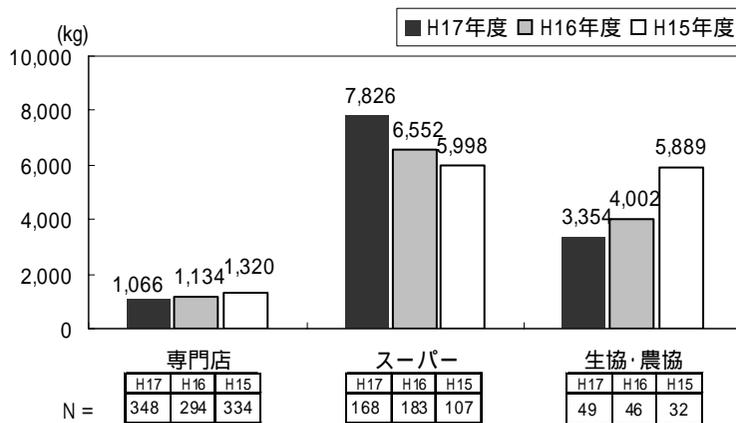


図2-2: 1店当りの食肉仕入量(10月分)



[経年調査比較]

業態別の仕入構成比を前回調査と比較すると(図2-1)、全体的に大きな変化はみられないが、「生協・農協」で「牛肉」の比率が低下(-5.8ポイント)し、「豚肉」が増加(+6.7ポイント)している。1店当たりの食肉仕入量を経年で比較すると(図2-2)、「スーパー」では大幅に漸増しているが、「専門店」「生協・農協」で漸減しており、特に「生協・農協」での減少が著しい。

仕入量は、関東以北・北陸で「豚肉」が5割以上、近畿・四国・中国は「牛肉」が34%以上でそれぞれ多い地域別の肉種別仕入構成をみると(図2-4)、「北海道」「東北」では「豚肉」の構成比が6割以上と高く、「牛肉」の比率が低い。

「北陸」「関東」も「豚肉」の構成比が高く5割以上を占める。「北陸」は「豚肉」が51.8%、「牛肉」が22.4%、「鶏肉」が25.8%、「関東」は「豚肉」が54.9%、「牛肉」が20.1%、「鶏肉」が25.0%であり、「牛肉」より「鶏肉」の仕入量が多い。「東海」は、「豚肉」が48.3%、「鶏肉」が30.4%、「牛肉」が21.3%である。

「近畿」は、「牛肉」の比率が「豚肉」を上回り、43.4%を占める。「中国」「四国(但し回答数14店)」も「牛肉」が34%台と多くを占めている。一方「近畿」は「鶏肉」の比率が低く、16.5%となっている。

「九州・沖縄」では、「豚肉」が41.9%、「牛肉」が30.5%「鶏肉」が27.6%という構成になっている。

[経年調査比較]

地域別の仕入構成比を経年で比較すると(図2-3)、地域別に変化がみられ、「東北」「東海」で「牛肉」の比率が漸減しているが、「九州・沖縄」では「牛肉」の比率が漸増している。

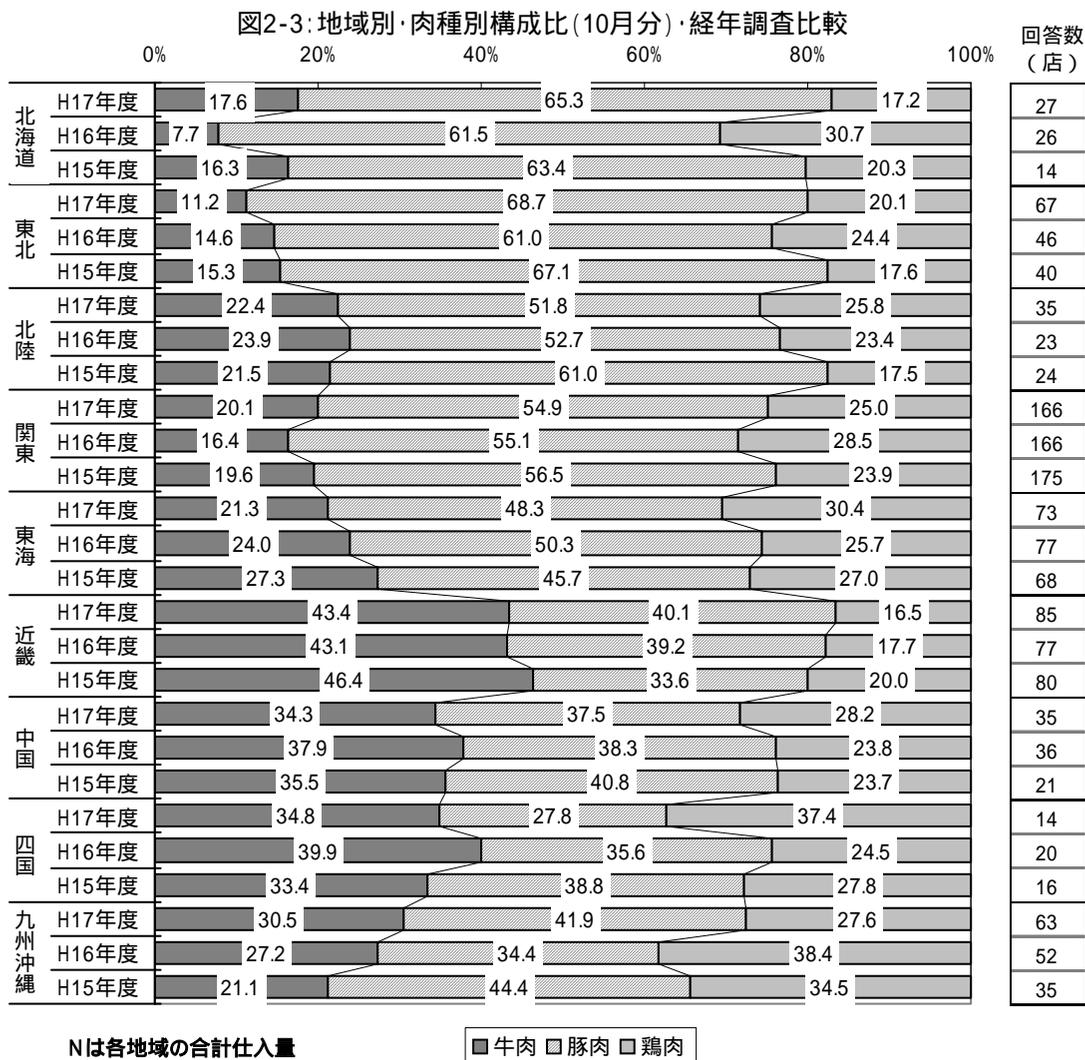
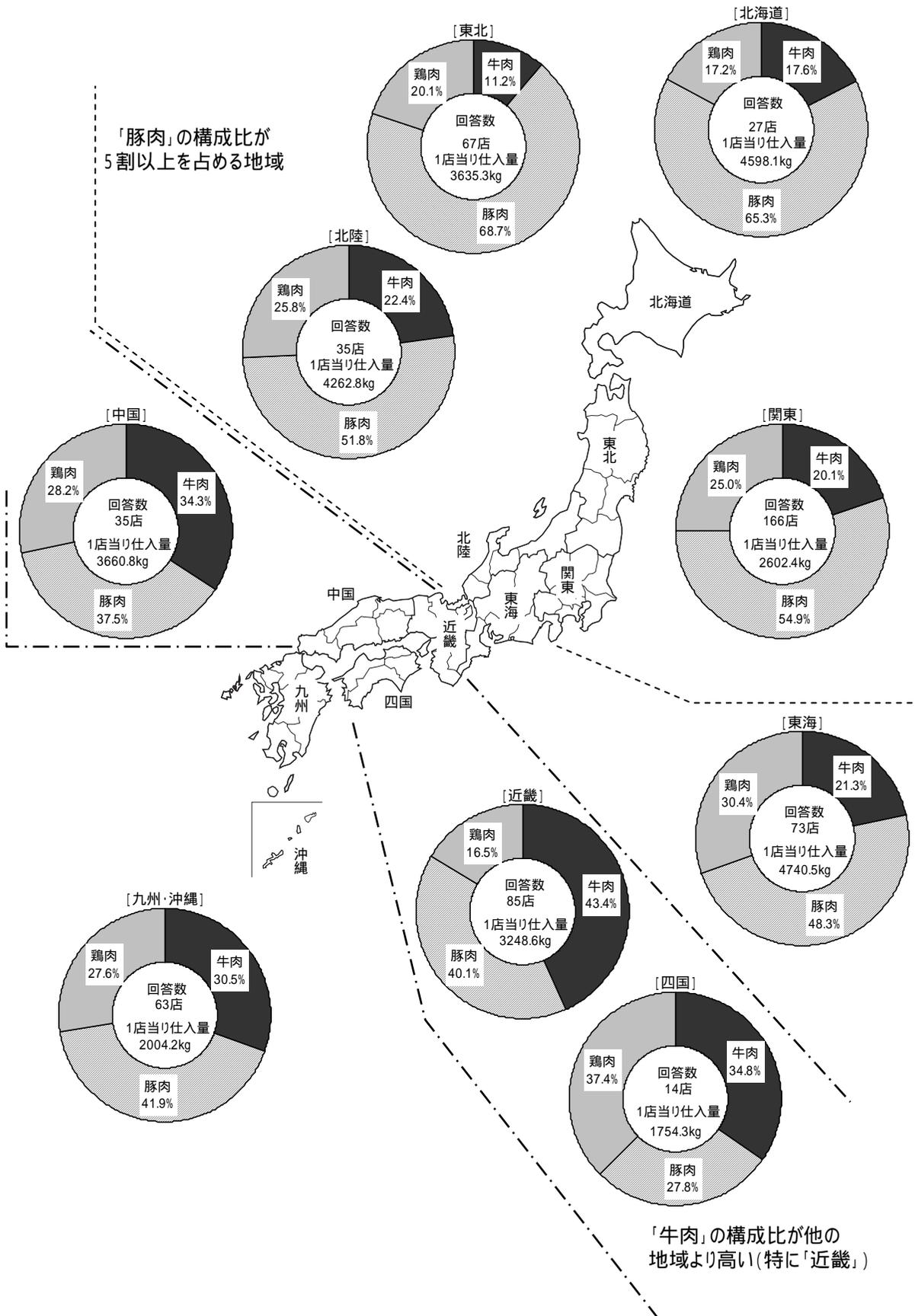


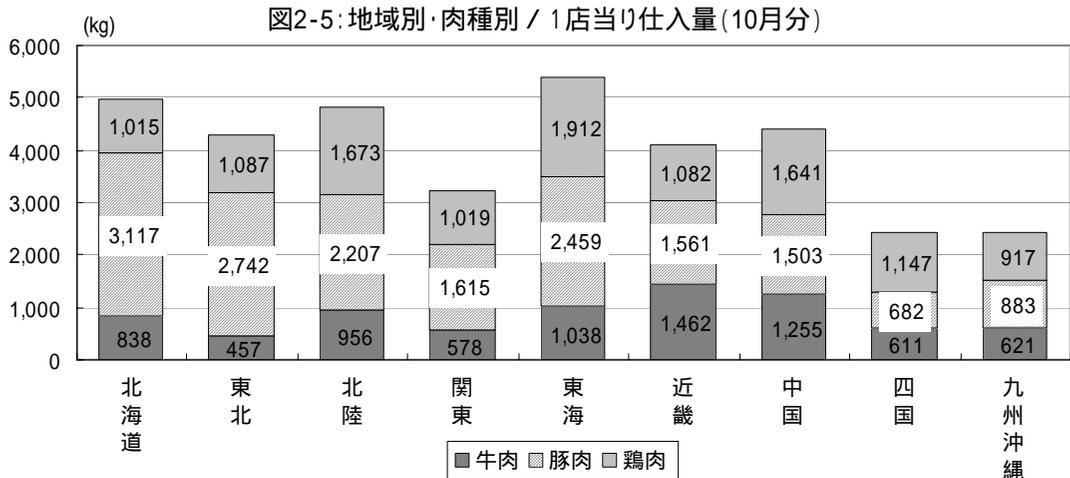
図2-4: 地域別・肉種別 / 仕入構成比(10月分)



各地域の円グラフ内の1店当り仕入量は、牛肉、豚肉、鶏肉のいずれかの食肉を仕入れた店舗数での平均値

1店当り仕入れ量は「東海」が多い。「牛肉」は「近畿」での仕入れ量が多い

地域別・肉種別の1店当り仕入れ量は(図2-5)、「東海」の仕入れ量が多くなっている。肉種別に1店当り仕入れ量を見ると、「牛肉」の仕入れ量は「近畿」が1,462kgと全国の中で最も多く、「豚肉」は「北海道」で3,000kg以上と多くなっている。



鶏肉	21店	45店	23店	106店	55店	42店	22店	8店	38店
豚肉	26店	61店	35店	147店	68店	71店	32店	10店	60店
牛肉	26店	60店	35店	150店	71店	82店	35店	14店	62店
(N)	北海道	東北	北陸	関東	東海	近畿	中国	四国	九州・沖縄

上記の「地域別・肉種別 / 1店当り仕入れ量」は、それぞれの肉種別に当該肉種を仕入れた店舗数での平均であるため、各肉種の仕入れ量を合計しても「図2-4: 地域別・肉種別 / 仕入れ構成比」で示した1店当り仕入れ量とはならない

2. 牛肉の仕入構成と仕入量(10月分)

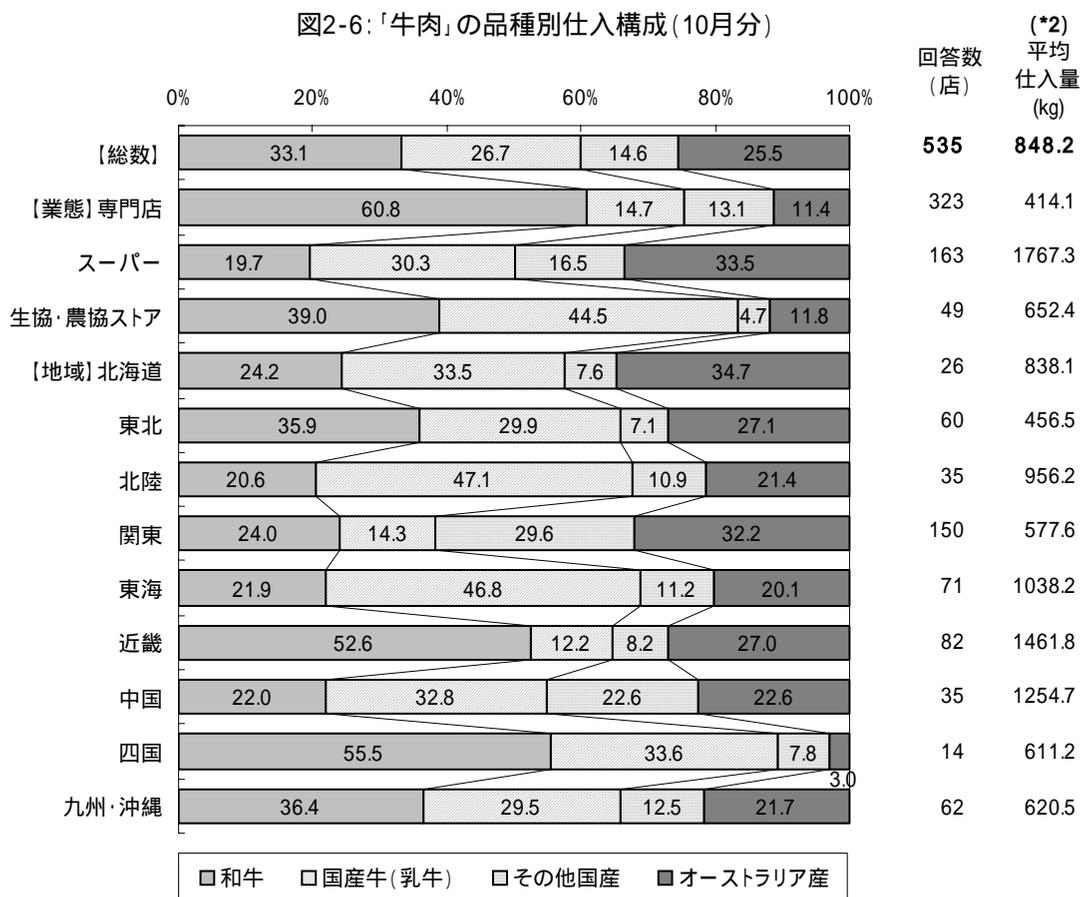
(1) 牛肉の品種別仕入構成

経年で比較すると、「和牛肉」の仕入構成比が漸減し、「国産乳牛肉」が漸増

牛肉の品種別仕入構成は、**図2-6**に示した通りで、「和牛肉」が33.1%、「国産乳牛肉」が26.7%、「その他国産牛肉」が14.6%、「オーストラリア産牛肉」が25.5%となっている。

業態別にみると、「専門店」は「和牛肉」が60.8%と多くを占め、次いで「国産乳牛肉」が14.7%で続く。「スーパー」は「和牛肉」が19.7%と他の業態に比べて低いが、「オーストラリア産牛肉」が33.5%で最も多くを占めている。「生協・農協」は、「和牛肉」が39.0%、「国産乳牛肉」が44.5%で、この2品種の仕入が多い。

地域別にみると、「近畿」では「和牛肉(52.6%)」が最も多くを占めている。また、「関東」では、「オーストラリア産牛肉(32.2%)」が最も多くを占めている。



Nはそれぞれの合計仕入量(kg)

(*2) 平均仕入量は、牛肉品種のいずれか(和牛肉、国産乳牛肉、その他国産牛肉、オーストラリア産牛肉)を仕入れた店舗数での平均であるため、以降の(2) ~ に示す品種別の平均仕入量(当該品種を仕入れた店舗数での平均)の合計値とはならない

アメリカ産牛肉については、本年度(平成17年度)調査時点である10月において輸入禁止であったため、全回答を無回答として集計した。

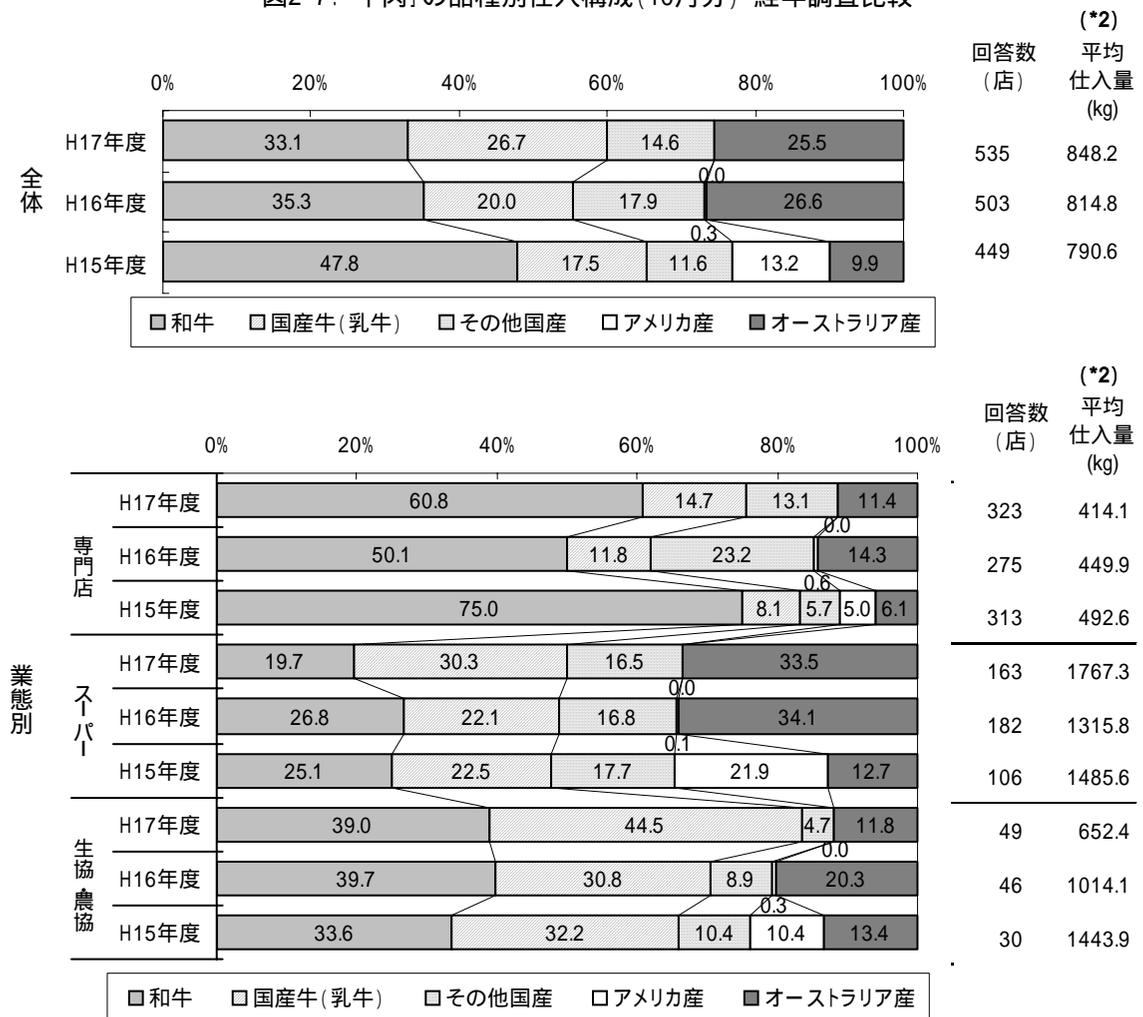
[経年調査比較]

「牛肉」の品種別仕入構成比を経年で比較すると(図2-7)、「和牛肉」が漸減(前々回:47.8%、前回:35.3%、今回:33.1%)している一方、「国産乳牛肉」が漸増(前々回:17.5%、前回:20.0%、今回:26.7%)している。

前々回調査から前回調査に大幅に増加した「オーストラリア産牛肉」は、今回調査では前回調査とほとんど変化がない。

業態別に前回調査と比較すると、「専門店」で「和牛肉」が10.7ポイント増加、逆に「スーパー」で「和牛肉」が7.1ポイント減少した。このほか「生協・農協」で「国産乳牛肉」が大きく増加している。

図2-7:「牛肉」の品種別仕入構成(10月分)・経年調査比較



Nはそれぞれの合計仕入量(kg)

(*2)本年度の平均仕入量は、牛肉品種のいずれか(和牛肉、国産乳牛肉、その他国産牛肉、オーストラリア産牛肉)を仕入れた店舗数での平均であるため、以降の(2) ~ に示す品種別の平均仕入量(当該品種を仕入れた店舗数での平均)の合計値とはならない。昨年度までの平均仕入量は、和牛肉、国産乳牛肉、その他国産牛肉、アメリカ産牛肉、オーストラリア産牛肉のいずれかを仕入れた店舗数での平均

アメリカ産牛肉については、本年度(平成17年度)調査時点である10月において輸入禁止であったため、全回答を無回答として集計した。昨年度(平成16年度)までは集計していたため掲載した。

(2) 品種別にみる牛肉の仕入形態

和牛肉(図2-8、表2-9)

「専門店」は、仕入量の4割強が「部分肉パーツ」での仕入。平均仕入量は近畿で多くなっている

「和牛肉」の1店当りの平均仕入量は336.5kgで、そのうち「部分肉パーツ」の形態での仕入量が36.8%、「部分肉セット」が32.5%、「枝肉」が28.5%を占め、「コンシューマーパック」での仕入は2.2%とわずかである。

業態別にみると、「専門店」は「部分肉パーツ」の仕入量が43.4%と多い。「スーパー」は「部分肉セット」が43.3%で多い。「生協・農協」は「部分肉セット」と「部分肉パーツ」がそれぞれ35%前後を占め、他業態に比べ「枝肉」での仕入は少なく、「自社製造コンシューマーパック」が15.4%みられる。

地域別の平均仕入量をみると、「近畿」の仕入量が788.7kgで最も多く、また「部分肉パーツ」での仕入量が44.1%と高い。「関東」は、「枝肉」と「部分肉セット」がそれぞれ35%前後を占めている。一方、「北陸」で「自社製造コンシューマーパック」が20.7%と他の地域に比べて大幅に高くなっている。また、平均仕入量は関東以北の地域に比べて「近畿」以西の地域で多い。

図2-8:「和牛肉」の形態別仕入量構成比(10月分)

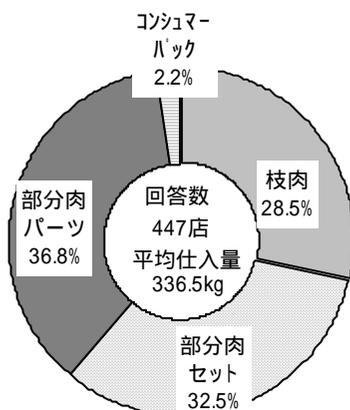


表2-9:業態別・地域別の「和牛肉」の形態別仕入量と構成比(10月分)

	総仕入量 (kg)	平均仕入量 (kg)	回答数 (店)	形態別仕入量構成比				
				枝肉 (%)	部分肉 セット (%)	部分肉 パ-ツ (%)	他社仕入 コンシューマ- パ-ツ (%)	自社製造 コンシューマ- パ-ツ (%)
総数	150,425	336.5	447	28.5	32.5	36.8	0.8	1.4
業態別								
専門店	81,285	305.6	266	31.9	24.7	43.4	0.0	0.0
スーパー	56,687	416.8	136	27.6	43.3	27.5	1.2	0.3
生協・農協	12,453	276.7	45	9.9	34.4	36.6	3.7	15.4
地域別								
北海道	5,273	277.5	19	6.9	51.8	41.3	0.0	0.0
東北	9,827	209.1	47	15.2	43.2	40.3	0.7	0.6
北陸	6,901	246.5	28	1.7	37.0	37.9	2.6	20.7
関東	20,753	171.5	121	36.2	34.2	26.3	2.1	1.1
東海	16,161	273.9	59	41.8	26.1	32.0	0.0	0.1
近畿	63,092	788.7	80	32.3	23.0	44.1	0.3	0.2
中国	9,667	302.1	32	20.1	56.5	20.6	2.8	0.0
四国	4,752	432.0	11	52.7	14.4	27.7	0.0	5.3
九州・沖縄	13,999	280.0	50	12.6	52.7	34.8	0.0	0.0

平均仕入量は、「和牛肉」を仕入れた店舗の平均値。「枝肉」は部分肉ベース(歩留率70%)で換算

国産乳牛肉(図2-10、表2-11)

「専門店」「スーパー」で「部分肉パーツ」での仕入が多いが、「生協・農協」では「部分肉セット」の仕入が多い

「国産乳牛肉」の1店当りの平均仕入量は466.6kgで、そのうち「部分肉パーツ」の形態での仕入量が48.7%、「部分肉セット」が35.8%を占める。「枝肉(12.5%)」での仕入は少ない。「コンシューマーパック」は3.0%である。

業態別にみると、「専門店」「スーパー」で「部分肉パーツ」での仕入が多いが、「生協・農協」では「部分肉セット」の仕入が多い。また「専門店」では「コンシューマーパック」での仕入は0.0%である。

地域別にみても、全体的に「部分肉パーツ」の比率が高くなっているが、「東海」では「枝肉」が31.8%と他の地域に比べ高い比率を示している。

図2-10:「国産乳牛肉」の形態別仕入量構成比(10月分)

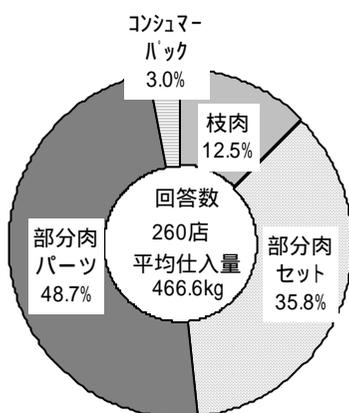


表2-11:業態別・地域別の「国産乳牛肉」の形態別仕入量と構成比(10月分)

	総仕入量 (kg)	平均仕入量 (kg)	回答数 (店)	形態別仕入量構成比				
				枝肉 (%)	部分肉 セット (%)	部分肉 ハーツ (%)	他社仕入 コンシューマ- ハーツ (%)	自社製造 コンシューマ- ハーツ (%)
総数	121,319	466.6	260	12.5	35.8	48.7	2.1	0.9
業態別								
専門店	19,696	171.3	115	19.8	20.1	60.1	0.0	0.0
スーパー	87,383	801.7	109	11.9	38.0	48.8	0.9	0.5
生協・農協	14,240	395.6	36	6.3	44.3	32.6	12.1	4.6
地域別								
北海道	7,292	486.1	15	0.2	57.9	41.9	0.0	0.0
東北	8,200	372.7	22	0.9	13.0	78.3	7.9	0.0
北陸	15,758	685.1	23	3.1	22.8	69.0	2.3	2.8
関東	12,354	202.5	61	10.8	31.2	54.2	1.7	2.1
東海	34,489	884.3	39	31.8	46.6	20.8	0.8	0.0
近畿	14,622	384.8	38	2.3	31.2	61.8	2.6	2.0
中国	14,396	685.5	21	3.6	45.1	47.8	3.5	0.0
四国	2,877	287.7	10	15.8	21.4	61.1	1.7	0.0
九州・沖縄	11,331	365.5	31	8.8	26.5	63.5	0.4	0.9

平均仕入量は、「国産乳牛肉」を仕入れた店舗の平均値。「枝肉」は部分肉ベース(歩留率70%)で換算

その他国産牛肉(図2-12、表2-13)

「専門店」「生協・農協」は「部分肉パーツ」、「スーパー」では「部分肉セット」の仕入量が多い

「その他国産牛肉」の1店当りの平均仕入量は367.1kgで、そのうち「部分肉セット」での仕入量が50.8%、「部分肉パーツ」が34.9%、「枝肉」が12.9%となっている。「コンシューマーパック」での仕入は1.5%である。

業態別にみると、「スーパー」は、「部分肉セット」での仕入量が最も多いが、「専門店」「生協・農協(但し回答数11店)」では「部分肉パーツ」が最も多い。

地域別は、回答数が10店に満たない地域もあるため地域特性を比較することはできないが、比較的回答数が多い「関東」をみると、「部分肉セット」が82.8%で最も多くなっている。

図2-12:「その他国産牛肉」の形態別仕入量構成比(10月分)

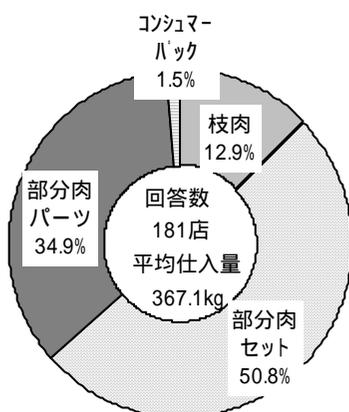


表2-13:業態別・地域別の「その他国産牛肉」の形態別仕入量と構成比(10月分)

	総仕入量 (kg)	平均仕入量 (kg)	回答数 (店)	形態別仕入量構成比				
				枝肉 (%)	部分肉 セット (%)	部分肉 ハーツ (%)	他社仕入 コンシューマ- パック (%)	自社製造 コンシューマ- パック (%)
総数	66,439	367.1	181	12.9	50.8	34.9	1.3	0.2
業態別								
専門店	17,480	210.6	83	26.7	31.4	41.4	0.6	0.0
スーパー	47,456	545.5	87	7.1	59.5	31.9	1.4	0.2
生協・農協	1,503	136.6	11	34.9	1.7	51.6	8.6	3.1
地域別								
北海道	1,663	207.9	8	22.7	32.5	38.8	6.0	0.0
東北	1,940	107.8	18	28.9	41.0	30.2	0.0	0.0
北陸	3,652	280.9	13	0.0	38.1	56.2	4.7	1.0
関東	25,664	546.0	47	5.2	82.8	9.9	2.0	0.1
東海	8,280	295.7	28	25.4	22.2	52.3	0.0	0.1
近畿	9,845	351.6	28	4.3	35.0	60.8	0.0	0.0
中国	9,916	661.1	15	21.2	28.5	49.1	0.7	0.5
四国	670	223.3	3	67.9	0.0	31.0	0.0	1.0
九州・沖縄	4,809	229.0	21	24.7	34.2	40.5	0.6	0.0

平均仕入量は、「その他国産牛肉」を仕入れた店舗の平均値。「枝肉」は部分肉ベース(歩留率70%)で換算

オーストラリア産牛肉(図2-14、表2-15)

いずれの業態も「部分肉パーツ」での仕入が大半を占める

「オーストラリア産牛肉」の1店当りの平均仕入量は422.0kgで、そのうち「部分肉パーツ」の形態での仕入量が84.2%を占める。次いで、「部分肉セット」が8.4% 「コンシューマーパック」が5.3%、「枝肉」が2.1%である。

業態別にみても、いずれも「部分肉パーツ」が8割強と多くを占めている。このほか、「専門店」「スーパー」では「部分肉セット」、「生協・農協」では「他社仕入コンシューマーパック」がそれぞれ1割弱みられる。

地域別に、回答数の比較的多い「東北」「関東」「東海」「近畿」「九州・沖縄」をみると、いずれも「部分肉パーツ」での仕入が8割以上を占めている。

図2-14:「オーストラリア産牛肉」の形態別仕入量構成比(10月分)

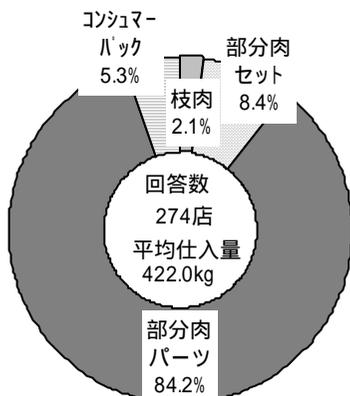


表2-15:業態別・地域別の「オーストラリア産牛肉」の形態別仕入量と構成比(10月分)

	総仕入量 (kg)	平均仕入量 (kg)	回答数 (店)	形態別仕入量構成比				
				枝肉 (%)	部分肉 セット (%)	部分肉 パーツ (%)	他社仕入 コンシューマー パック (%)	自社製造 コンシューマー パック (%)
総数	115,626	422.0	274	2.1	8.4	84.2	4.1	1.2
業態別								
専門店	15,307	143.1	107	1.0	9.2	85.5	4.3	0.0
スーパー	96,546	689.6	140	2.4	8.3	84.2	3.8	1.3
生協・農協	3,773	139.7	27	0.9	7.4	81.5	8.8	1.3
地域別								
北海道	7,563	398.1	19	1.9	16.5	75.0	6.6	0.0
東北	7,423	212.1	35	0.0	6.5	92.7	0.7	0.0
北陸	7,155	477.0	15	0.0	0.7	79.1	7.0	13.2
関東	27,867	398.1	70	6.9	3.5	83.3	6.1	0.1
東海	14,784	389.1	38	0.3	0.3	96.5	2.7	0.1
近畿	32,305	923.0	35	0.1	7.0	91.1	0.8	1.1
中国	9,937	496.9	20	0.0	39.2	48.2	12.6	0.0
四国	258	64.5	4	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
九州・沖縄	8,334	219.3	38	4.0	8.8	86.8	0.4	0.0

平均仕入量は、「オーストラリア産牛肉」を仕入れた店舗の平均値。「枝肉」は部分肉ベース(歩留率70%)で換算

3. 豚肉の仕入構成と仕入量(10月分)

(1) 豚肉の品種別仕入構成

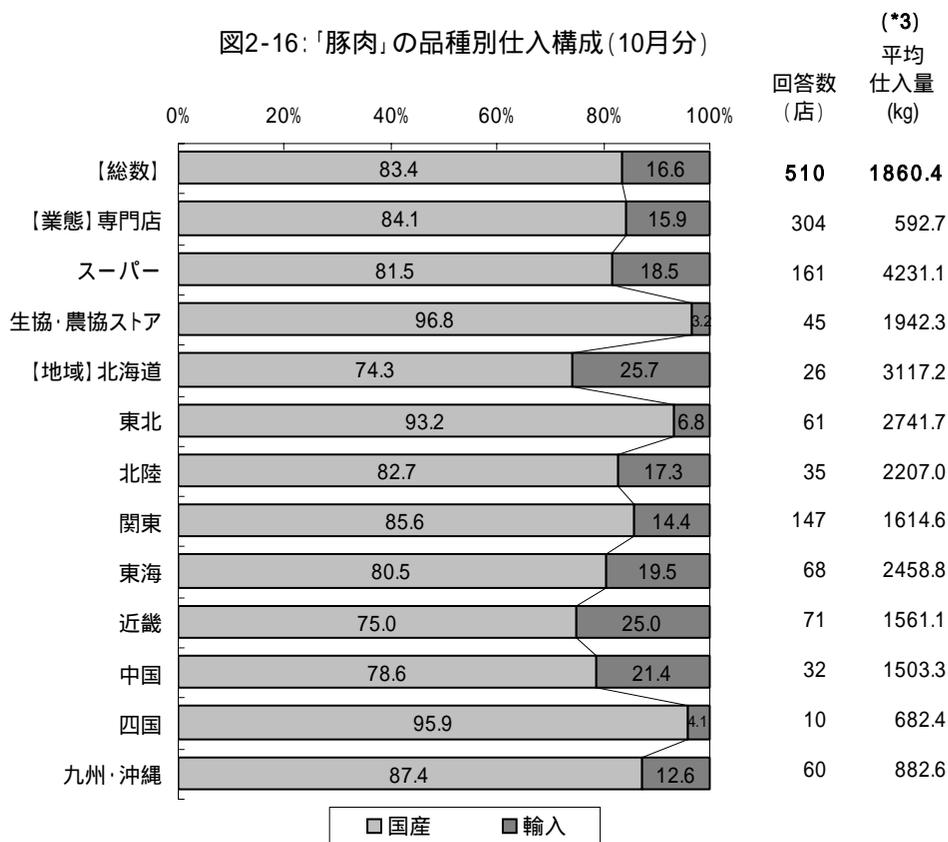
「国産豚肉」の仕入構成比が83.4%を占める。「専門店」「スーパー」では「輸入豚肉」が増加

豚肉の品種別仕入構成は、図2-16に示した通りで、「国産豚肉」が83.4%、「輸入豚肉」が16.6%を占める。

業態別・地域別にみても、「国産豚肉」が大半を占めているが、3業態の中では「生協・農協」で「輸入豚肉」の比率が3.2%と非常に低くなっている。

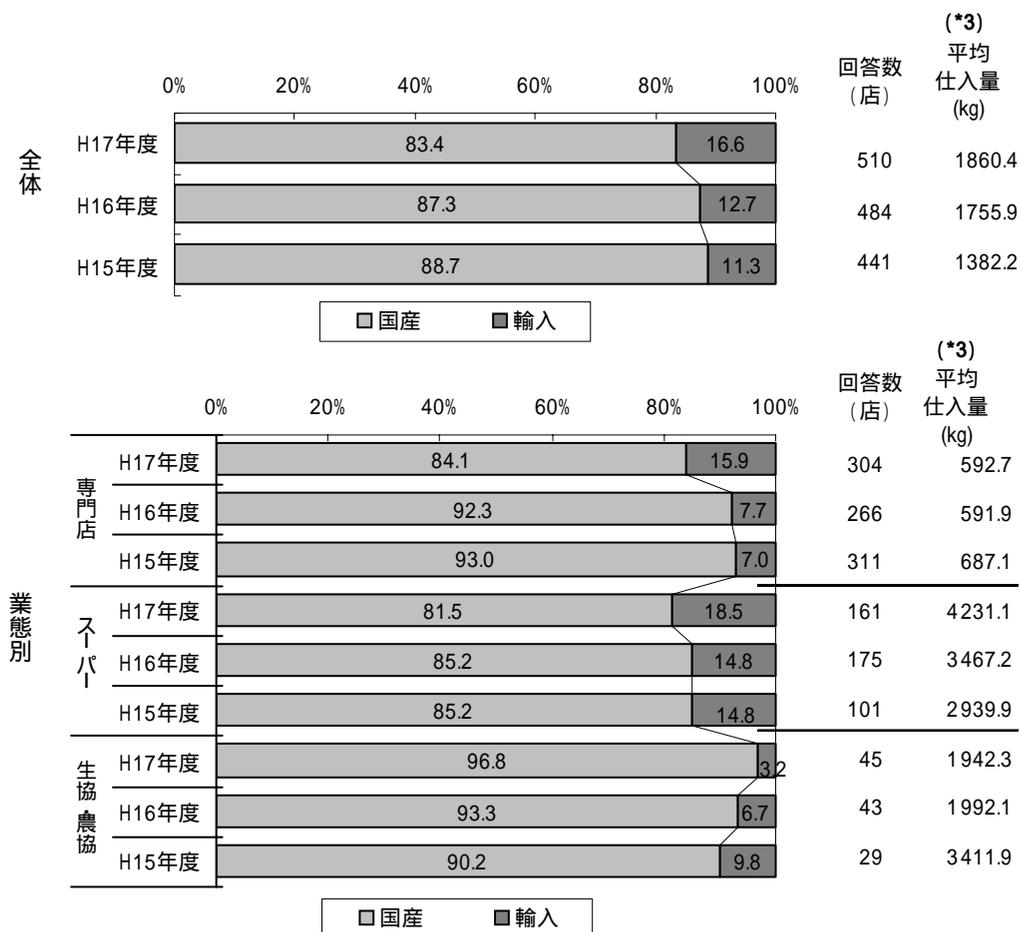
[経年調査比較]

「豚肉」の品種別仕入構成比を経年比較すると(図2-17)、全体として「国産豚肉」が漸減し、それに伴って「輸入豚肉」が漸増している。業態別でみると、「専門店」では「輸入豚肉」が今回調査で大幅に増加した。「スーパー」でも「輸入豚肉」が増加している。これに対して「生協・農協」は「輸入豚肉」が年々減少し、3.2%にまで減少している。



(*3)平均仕入量は、豚肉品種のいずれか(国産豚肉、輸入豚肉)を仕入れた店舗数での平均であるため、以降の(2) ~ に示す品種別の平均仕入量(当該品種を仕入れた店舗数での平均)の合計値とはならない

図2-17:「豚肉」の品種別仕入構成(10月分)・経年調査比較



Nはそれぞれの合計仕入量(kg)

(*3)平均仕入量は、豚肉品種のいずれか(国産豚肉、輸入豚肉)を仕入れた店舗数での平均であるため、以降の(2) ~ に示す品種別の平均仕入量(当該品種を仕入れた店舗数での平均)の合計値とはならない

(2) 品種別にみる豚肉の仕入形態

国産豚肉(図2-18、表2-19)

「専門店」「生協・農協」では「部分肉パーツ」、「スーパー」では「部分肉セット」の仕入量が多い

「国産豚肉」の1店当りの平均仕入量は1,560.9kgで、そのうち「部分肉パーツ」が40.7%で最も多い。次いで、「部分肉セット」が39.8%、「枝肉」が14.1%、「コンシューマーパック」は5.3%となる。

業態別にみると、「専門店」は「部分肉パーツ」の仕入量が45.2%と多くを占め、次いで「枝肉」が29.0%となっている。「スーパー」は「部分肉セット」が46.8%、「部分肉パーツ」が38.7%を占める。「生協・農協」は、「部分肉パーツ」が45.7%と多い。また「他社仕入コンシューマーパック」が20.6%と多くなっている。

地域別にみると、「部分肉セット」または「部分肉パーツ」の比率が高い地域が多いが、「東海」では「部分肉パーツ」(44.4%)に次いで、「枝肉」が35.3%と多くなっている。

図2-18:「国産豚肉」の形態別仕入量構成比(10月分)

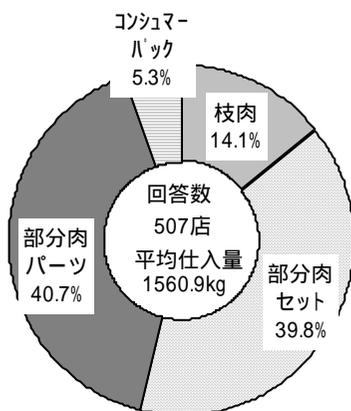


表2-19:業態別・地域別の「国産豚肉」の形態別仕入量と構成比(10月分)

	総仕入量 (kg)	平均仕入量 (kg)	回答数 (店)	形態別仕入量構成比				
				枝肉 (%)	部分肉 セット (%)	部分肉 パ-ツ (%)	他社仕入 コンシューマ- パ-ツ (%)	自社製造 コンシューマ- パ-ツ (%)
総数	791,383	1,560.9	507	14.1	39.8	40.7	3.9	1.4
業態別								
専門店	151,566	501.9	302	29.0	23.9	45.2	2.0	0.0
スーパー	555,190	3,469.9	160	11.4	46.8	38.7	1.8	1.3
生協・農協	84,627	1,880.6	45	5.6	22.8	45.7	20.6	5.3
地域別								
北海道	60,212	2,315.8	26	4.6	52.5	41.1	1.7	0.0
東北	155,811	2,554.3	61	7.8	49.1	34.3	8.5	0.4
北陸	63,894	1,936.2	33	3.4	56.3	32.3	2.2	5.7
関東	203,080	1,381.5	147	16.8	44.6	33.7	3.9	1.0
東海	134,561	1,978.8	68	35.3	19.5	44.4	0.7	0.1
近畿	83,177	1,171.5	71	5.9	25.7	57.9	7.0	3.6
中国	37,801	1,181.3	32	6.0	42.2	45.1	1.2	5.6
四国	6,544	654.4	10	25.3	36.9	37.8	0.0	0.0
九州・沖縄	46,303	784.8	59	9.1	31.6	59.2	0.0	0.0

平均仕入量は、「国産豚肉」を仕入れた店舗の平均値。「枝肉」は部分肉ベース(歩留率70%)で換算

輸入豚肉(図2-20、表2-21)

「部分肉パーツ」の仕入が中心であるが、「生協・農協」では「部分肉セット」も20.9%を占める

「輸入豚肉」の1店当りの平均仕入量は722.1kgで、そのうち「部分肉パーツ」での仕入量が87.0%と最も多くを占める。そのほかの「部分肉セット(9.5%)」「コンシューマーパック(2.7%)」「枝肉(0.8%)」は少ない。

業態別にみると、すべての業態で「部分肉パーツ」の仕入量が最も多い(但し「生協・農協」の回答数16店)。

地域別をみると、回答数の比較的多い「関東」「東海」「近畿」では、いずれも「部分肉パーツ」が圧倒的に多くを占める。また「関東」では「他社仕入コンシューマーパック」が他地域よりわずかに多くみられる。

図2-20:「輸入豚肉」の形態別仕入量構成比(10月分)

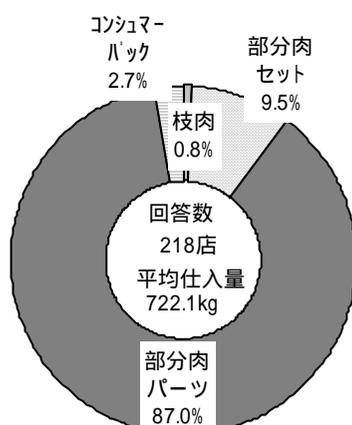


表2-21:業態別・地域別の「輸入豚肉」の形態別仕入量と構成比(10月分)

	総仕入量 (kg)	平均仕入量 (kg)	回答数 (店)	形態別仕入量構成比				
				枝肉 (%)	部分肉 セット (%)	部分肉 パ-ツ (%)	他社仕入 コンシューマ- パ-ツ (%)	自社製造 コンシューマ- パ-ツ (%)
総数	157,424	722.1	218	0.8	9.5	87.0	2.3	0.4
業態別								
専門店	28,628	376.7	76	3.1	9.1	86.8	1.0	0.0
スーパー	126,021	1,000.2	126	0.2	9.3	87.5	2.5	0.4
生協・農協	2,776	173.5	16	1.0	20.9	65.7	4.1	8.3
地域別								
北海道	20,836	1,302.3	16	1.3	9.9	87.9	1.0	0.0
東北	11,434	497.1	23	0.2	18.9	80.9	0.0	0.0
北陸	13,350	953.6	14	0.0	18.8	79.3	0.0	1.9
関東	34,266	601.2	57	0.0	9.9	84.6	5.2	0.3
東海	32,636	1,052.8	31	0.7	1.2	97.5	0.2	0.3
近畿	27,663	892.4	31	0.1	4.3	94.7	0.1	0.8
中国	10,306	644.1	16	5.4	27.7	52.2	14.6	0.0
四国	280	140.0	2	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
九州・沖縄	6,654	237.6	28	1.5	5.7	92.5	0.2	0.0

平均仕入量は、「輸入豚肉」を仕入れた店舗の平均値。「枝肉」は部分肉ベース(歩留率70%)で換算

4. 鶏肉の仕入構成と仕入量(10月分)

(1) 鶏肉の品種別仕入構成

「国産鶏肉」が9割以上。「輸入鶏肉」の仕入構成比率は「専門店」の12.8%が最も高い

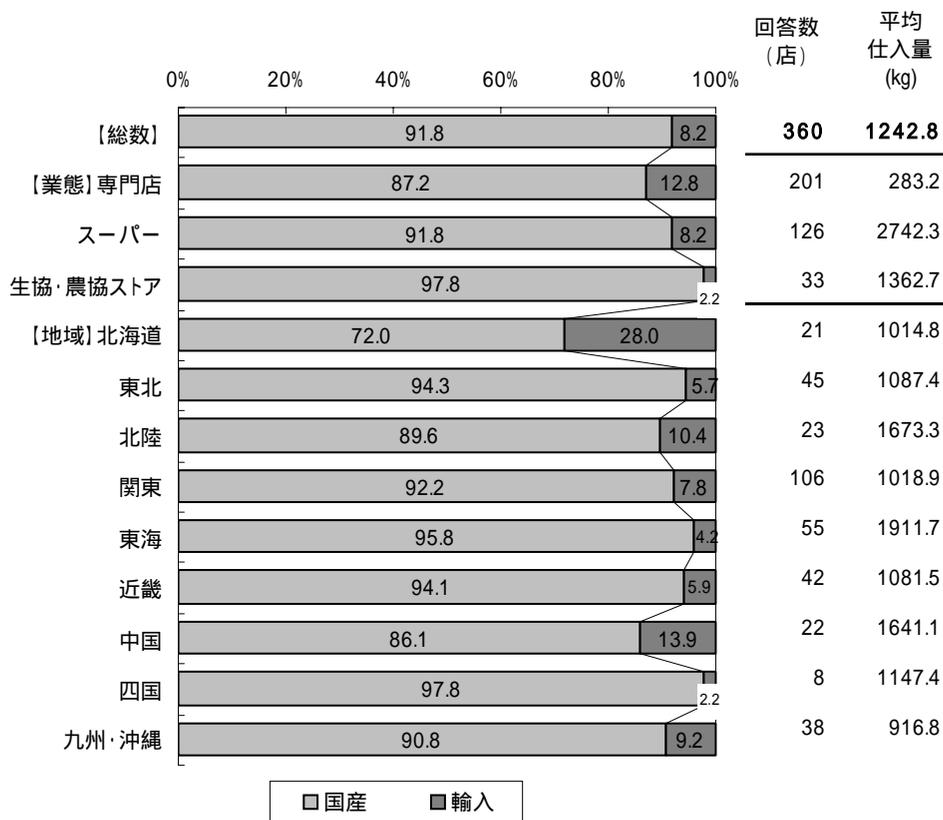
鶏肉の品種別仕入構成は、図2-22に示した通りで、「国産鶏肉」が9割以上を占める。

業態別にみても、いずれも「国産鶏肉」が大半を占めているが、「輸入鶏肉」の比率は「専門店」で最も高く、12.8%を占めている。

[経年調査比較]

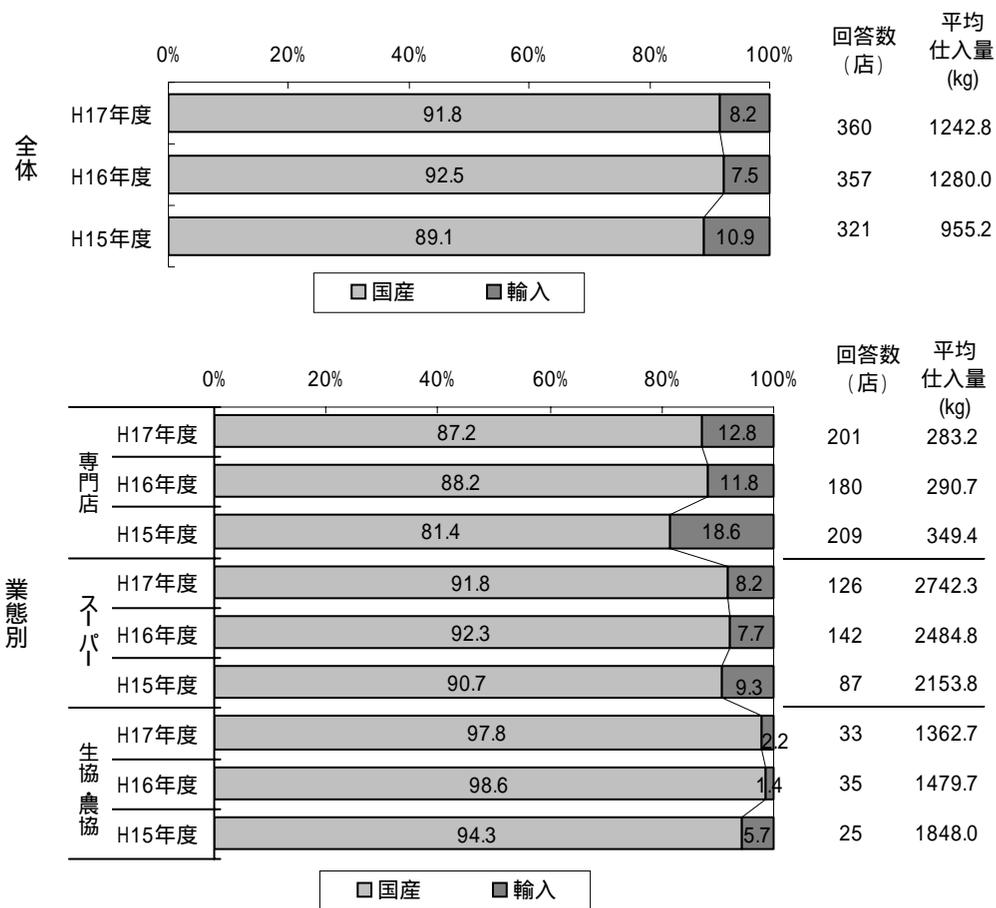
「鶏肉」の品種別仕入構成比の経年比較(図2-23)をみると、今回調査は前回調査とほぼ同様である。業態別では、いずれの業態とも前回調査に比べ「輸入鶏肉」の比率が微増しているが、前々回調査に比べるとその比率は低い。

図2-22:「鶏肉」の品種別仕入構成(10月分)



Nはそれぞれの合計仕入量(kg)

図2-23:「鶏肉」の品種別仕入構成(10月分)・経年調査比較



Nはそれぞれの合計仕入量(kg)

